

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」をめざす
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす
3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす

## 2 中期的目標

## 【次なる50年に向かって颯爽と】

→ 平成24年に50周年を迎えたことを踏まえ、これまでの伝統の継承・さらなる発展と、より多くの「颯爽」たる若者（枚方高校校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）を育てていくことへの決意を込めて、これを合言葉としたい。

## 1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて

- (1) 生徒一人ひとりが、自己実現を果たしていくために必要な「確かな学力」を身に付けることができるよう、全教員の「授業改善」に取り組む。
  - ・各教科において一層明確な「学習到達目標」を設定し、「枚高マップ」をもとにした「教科スタンダード」を作成してきた。今後、新たに作成した指導と評価の年間計画（シラバス）の中で、評価の観点の趣旨と評価方法設定を進め、観点別評価に対応できるよう努めていく。また、次期学習指導要領の改訂に向け、本校生徒に応じた新しい教育課程の検討を始める。また、平成29年度入学生から再構築した「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」に移行するにあたり、課題の発見と解決していく資質・能力をより育成できるような学びを構築していく。
  - ・ICTの積極的活用の推進等を含めた「今後における新しい授業のあり方」についての校内研修をさらに充実させ、学校全体の取組みに発展させる。この取組み等により、令和4年度以降、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率85%以上を維持（H30 75% R1 79% R2 86%）とともに、授業アンケートにおける満足度3.20以上を維持。（H30 3.12 R1 3.24 R2 3.25）（※「満足度」とは、授業アンケート「問8 授業内容に興味・関心を持つことができた」及び「問9 知識・技能が身に付いた」についての全教員の評価平均（4点満点）
- (2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。
  - ・最後まであきらめずにチャレンジする生徒を育てることにより、令和5年度には現役生の国公立大学合格者を10人以上に。（H30 4人 R1 4人 R2 6人）
  - ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率を令和4年度以降80%維持。（H30 74% R1 78% R2 84%）
  - ・「総合的な探究の時間」でSDGs課題研究・キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施し、課題を発見し解決する力を育成する。
  - ・生徒の表現力を高め、創造力をより豊かなものにしていくため、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、読書指導や文章を書く力を育成する。令和5年度「自己診断」 「総合的な探究の時間（枚方未来学）は自分の成長に役立っている」（H30 61% R1 73% R2 81%）を85%以上に

## 2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

- (1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。
  - ・学校行事については、生徒の主体的な取組みを一層支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率90%以上を達成し、維持していく。
  - ・部活動加入率について、令和5年度には80%を達成するとともに、一層の増加をめざす（H30 74% R1 74% R2 75%）
- (2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。
  - ・遅刻者数について、年間1,000未満を維持するとともに、一層の減少に向けて、指導を継続していく。（H30 638人、R1 882人 R2 940人）
  - ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導の充実、携帯電話使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

## 3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

- (1) グローバルな人材を育成するため、英語の4技能を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。
  - ・大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「10校合同課題研究会」等に積極的に参加する。
  - ・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、それに向けた準備講習等を計画的に実施し、卒業時には、全員が英検2級レベル以上に合格するとともに、第2外国語選択者について各外国語の初級検定以上に合格することをめざす。
- (2) 国際文化科への改編に伴い、国際教養科、普通科の教育内容の充実を行い、国際交流・異文化理解教育のさらなる活性化、SDGsの課題研究等により、世界規模で自ら考え、調べ、行動、発信できる人間を育成する。
  - ・国際文化科において、3年間を通じた、SDGs課題研究及び国際交流・異文化理解教育の取組みによりを充実させ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を育成し、世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動、発信できる人間を育成する。その取り組み・成果を国際教養科、普通科とも共有する。
  - ・令和4年度以降の教育課程編成・教育内容等について、普通科と国際文化科・国際教養科の特色及び学校全体としての連携を図りながら、更なる充実を図る。
  - ・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、テーマに応じて生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていく活動となるよう、推進していく。

## 4 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

- (1) 学校トータルとしての広報活動を立案・実施する機能の強化。
  - ・校外との連携において、渉外及び校内調整について、また、本校の魅力や入学者選抜におけるアドミッションポリシー等、必要な情報を積極的に発信していくため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善やブログによる情報発信、学校HPを活用した情報提供について組織的に行う。
- (2) 教育環境の整備とエコ対策の強化を図る。
  - ・短焦点プロジェクターやタブレットPCの活用を推進するとともに、ギガスクール・スマートスクールに対応した体制を構築・展開し、オンラインによる授業や保護者等を含めた情報発信・情報収集を活用する体制を構築する。
  - ・効率的学校運営に向けて、ペーパーレス環境の一層の推進、ICTの活用による各会議・研修の効率化、校内における連絡体制のあり方等を見直していく。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [R3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒アンケート】</b> 30項目中6項目で肯定率が上昇、19項目で減少するなど、全般的に肯定率は下がった。「文化祭・体育祭・修学旅行は工夫されている94.4%」「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある93.9%」「人権について学ぶ機会がある97.5%」「国際交流の取り組みが活発92.1%」「授業では自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある91.2%」など高い肯定率を維持している項目も多い。一方で「枚方高校はボランティア活動が活発である。72.9%」「他の学校や地域の人と交流する機会がある。72.7%」などはコロナ禍の影響もあるが、肯定率が低く、今後の課題といえる。</p> <p><b>【保護者アンケート】</b> 30項目中10項目で肯定率が上昇、9項目で減少し、全般に前年度との変化は小さい。肯定率、が昨年度に比べて大きく上昇したのは「メルマガはよく役に立っている。77.9%（15.2%増）」であり、フォーム作成ツールの活用成果であろう。一方「枚方高校のホームページはよく役に立っている。64.0%（12.9%減）」「枚方高校は保護者や地域の人々に対し授業参観の機会を設けている50.9%（15.4%減）」などはコロナ禍の影響も大きい。HP更新等の情報発信を含め開かれた学校づくりの充実が必要と考えられる。</p> <p><b>【教職員アンケート】</b> 52項目のうちほとんどの項目で大きく肯定率が増加した。特に「府主催の研修に計画的に参加できる体制が整っている。92.5%（22.0%増）」「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施。92.5%（16.4%増）」などの項目で前年度と比較しても高い肯定率となっており、研鑽に励む教員の姿勢が反映されているといえる。</p>	<p>第1回 令和3年7月5日（月）＜学校経営計画、教科書選定＞ ○小中学校はICT端末を1年早く配布し、生徒に使用ルールを決めさせるなど、学校運営への参加で、自尊感情を育成している。高校ではどうか。→生徒のICT委員を選出するなど、生徒の考えを取り入れながら活用を進めていきたい。 ○働き方改革について会議のペーパーレス化、連絡のオンライン化などの取り組みを進め、いっそうの時間短縮をめざしてほしい。→本校は比較的時間外勤務が少ないが、今後はアンケート機能の活用、小テストの採点集約のICT化等も含め時間の縮減に努める。</p> <p>第2回 令和3年11月15日（月）＜授業見学ののち、学校経営計画の進捗＞ ○1人1台端末は子ども・保護者とも活用が進んできており、今後はWifi環境や机の狭さなど使用環境の整備が必要だと考える。→可能なことは取り組みを進め環境整備に努める。 ○進路決定の際の生徒の意識と指導はどのようなものか。→入学時からの進路HRの他、個別面談等を行い未定の生徒を減らすよう支援している。</p> <p>第3回 令和3年2月21日（月）＜学校教育自己診断の報告、学校経営計画の承認＞ ○職員の多忙化の観点から部活動の取組みはどのようにしているのか。→効率よく部活動を行うことで、超過勤務の縮減を図る。 ○進路の状況やシステムについて、保護者理解をもっと深めてもらいたい。→進路情報を一層伝えるよう工夫する。 【学校経営計画について承認】</p>

## 府立枚方高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	ア 指導と評価の一体化の導入をさらに進め、観点別評価を試行する。国際文化科教育課程の実施及び更なる充実への検討を行う。また、合理的な配慮について、一層の理解・共有を進め、内規等の整備を行う。 イ 授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、更なる改善に向けて取り組む。 ウ 教員相互の授業見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を活用し、ICT 機器の活用やグループ学習などの研究・研修に努めて、主体的・対話的で深い学びを推進し、魅力的で「わかりやすくなる授業」をめざす。	ア 観点別評価の試行実施、国際文化科教育課程の実施。新学習指導要領の改訂に基づく教育課程（R4～）の策定・試行。 内規等の整備、個別の指導計画・個別の支援計画の整備 イ 授業アンケートにおける「満足度」の維持[3.31] ウ 自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を90%に[86.3%]	ア 観点別評価については2学期に試行を実施した。国際文化科教育課程の実施を進め、普通科と併せて新学習指導要領に改訂に基づく教育課程（R4～）の策定を行った。内規等についても、個別の指導計画・個別の支援計画を含め整備した。(○) イ 授業アンケートにおける「満足度」の維持は3.37。今後も改善に向けて取り組む。(◎) ウ 自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率85.1%と目標を下回った。次年度は教員相互の授業見学の機会の実施などを通じさらなる授業改善に取り組む。(△)
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア 家庭学習を含め、観点別評価を活用した学習指導のあり方について、授業力向上PTを中心として検討・実践を進め、生徒の更なる学力向上を図る。 イ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を積極的に活用し、全員を対象として実施する。また、各担任の進学指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。 学習到達目標に合わせた学習指導と進路指導を共有化する。(教科スタンダードの活用) ウ 「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」学年会等での情報共有を密にし、個別の課題等を抱える生徒支援体制の充実。SC、関係外部機関との連携。いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施および面談の充実。 エ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向けて、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させるとともに、「総合的な探究の時間」において、SDGs 課題研究などを通して課題を見つけ探究し、解決し、発表・発信する能力を育成する。	アイ 「学力生活実態調査」における生徒の家庭学習時間を平日、休日とも平均60分以上に[1・2年平均平日45分、休日82分]また、同調査における「B2ゾーン」以上の生徒割合を2年生（2回目）50%以上に[48.4%]。 以上の成果として進学実績を向上させ、現役生国公立大4人以上かつ関関同立40人以上の合格をめざす[国公立6人、関関同立49人] ウ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を85%以上に[84.2%] 「いじめについて真剣に対応」の肯定率維持[91.6%] 自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率維持[87.1%] エ 自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」[96.0%]、「人権について学ぶ機会がある」[96.2%]の肯定率の維持	ア・イ 「学力生活実態調査」における生徒の家庭学習時間 [1・2年平均平日52分、休日82分]と一部達成できた。来年度は目標設定を見直し継続する。(○) 「B2ゾーン」の割合は53.7%と上昇した。今後も継続して取り組む。(◎) 現役生国公立大4人、関関同立105人。(○) ウ「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率は82.1%であり、今後も生徒情報の共有をさらに進め、気づきの場を増やすこと等、様々な機会をとらえ対応する。(△) 「いじめを真剣に対応」は92.8%に上昇、今後も継続して取り組む。(◎) 「保護者の相談に適切に対応」の肯定率は88.0%と維持できた。今後も体制を充実させ、支援に取り組む。(○) エ 「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」95.4%と肯定率を維持。(○) 「人権について学ぶ機会がある」肯定率97.5%と上昇した。(◎) 今後も指導の充実を図る。
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 学校行事の充実、部活動の活性化	ア 学校行事及びクラブ活動・生徒会活動の活性化を推進し、生徒の自尊感情の高揚を図る。 ・「ノークラブデー」や部活動の指針により、クラブの活性化と効率化及び学習との両立をめざす。 ・文化祭・体育祭を、企画から運営まで、可能な限り部活動生徒等に担当させる。 ・あいさつ運動、ボランティア活動、ユネスコ・スクールとしての取組み等について、生徒会と関係クラブ等が連携できる体制を構築。	ア 自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率90%に[88.1%] 自己診断「学習と部活動の両立を大切にすると雰囲気がある」の肯定率90%に[87.3%] 自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率90%以上維持[92.4%]	ア 「学校に行くのが楽しい」肯定率87.5%と現状維持ではあるが達成できなかった。行事の魅力化を検討する機会を設け、工夫して実施する。(△) 「学習と部活動の両立を大切に」の肯定率80.8%については低下し、目標達成はできなかった。効率よく部活動を行い、自宅学習の時間の確保を図るとともに、次年度は目標や項目を見直し再設定する。(△) 「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深い」の肯定率94.4%はコロナ禍においても工夫しての実施であり目標数値を上回った。今後も工夫し、充実した取り組みをめざす。(◎)
	(2) 生活規律を確立させる取組み	ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、教員間の組織体制の充実。規則の再確認。 ・遅刻指導、服装指導、頭髪指導の継続 ・交通安全指導、薬物乱用防止教育の充実 ・SNSの正しい理解、携帯電話の使い方指導	ア 年間総遅刻者数1,000人未満維持[940人] 自己診断「指導に納得・共感」の肯定率向上[生徒78.6%、保護者85.5%] 自己診断「情報リテラシー」の肯定率70%以上[65.9%]	ア 年間総遅刻者数は861人であり維持できた。(○) 自己診断「指導に納得・共感」の肯定率は[生徒78.3%、保護者86.9%]と維持もしくは上昇傾向がうかがえた。(○) 自己診断「情報リテラシー」の肯定率は82.5%と上昇した。(◎) 今後いずれの項目についても継続して取り組む。
3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1) 英語4技能の育成とコミュニケーション能力・プレゼンテーション力の伸長	ア 英語力4技能の育成を進めるため、指導法の工夫を行うとともに、英検等英語外部検定について、1・2年全員の積極的な受験を行う。 イ 英語暗唱弁論大会の充実、「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「10校合同課題研究発表会」等への積極的に参加を行う。	ア 英検等、外部検定について、卒業時までに英検2級相当以上を取得することをめざす。 イ 自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率90%以上維持[92.2%]	ア 外部検定については、国際文化科の全員受験など取り組みが進んだ。卒業生の英検準2級相当以上は92.3%であり、国際文化科生の卒業時に向けて、今後も継続して指導を行う。(○) イ「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」は91.2%であり、各種イベントでの発表も実施できた。今後は内容の充実を図り、継続して参加する。(○)
	(2) 国際文化科・ユネスコ・スクールとしての取組みの充実・国際交流活動の更なる充実	ア 海外修学旅行及び海外語学研修のさらなる充実、学校交流の推進。旅費の効率的な執行。 イ ユネスコ・スクールとしての活動を一層充実させるとともに、適切に情報発信。 ウ 異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。	ア 事後のアンケート結果等を分析し、肯定率95%以上を維持。(修学旅行アンケート：全体評価[96.4]) イウ 自己診断「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率80%以上に[73.5%] 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率90%以上を維持[94.6%]	ア コロナ禍により海外修学旅行、海外語学研修は実施できなかった。(一) イウ コロナ禍により他校や地域の人と交流する機会を十分に持つことができなかった。(一) 「国際交流活動が活発」92.1%はオンラインの活用による実施など形態に工夫を凝らした。今後も検討を続けて実施する。(○)
4 教員組織体制強化と環境整備	(1) 広報活動の一層の充実	ア 広報に関する業務を分掌機能の中に明確に位置づけることで、学校トータルとしての広報機能を充実。Web ページの充実を行う。 イ 学校説明会の一層の充実及び中学校等が主催する進学説明会への積極的参加を推進。 ウ 「枚高メルマガ」「ブログ」等の活用により、保護者への情報発信を一層充実させる。	ア・イ 志願者の確保[1.23倍] 学校説明会の参加者数1,000人以上を維持[600人] ウ 自己診断保護者「枚高メルマガは役立っている」65%以上[62.7%]	ア・イ 志願者の確保[1.13倍] (○) 学校説明会はコロナ禍により実施回数を減らし、人数制限を加えたが870名の参加者数となった。(○) ウ 年度途中から学習支援クラウドサービスに切り替えて情報発信を行い、自己診断保護者肯定率は77.9%と上昇した。今後も一層の充実を図る。(◎)

## 府立枚方高等学校

(2) 教育環境のさらなる改善・充実	<p>ア ICT 機器の充実、授業での活用の研究工夫。GIGA スクール・スマートスクールへの計画・準備・対応</p> <p>イ 会議室でのプロジェクター活用、校内イントラネット、統合 ICT の活用等により、会議資料ペーパーレス化・効率化を一層推進。部会、学年会、教科会、委員会における意見交換・情報共有を活発に行うとともに、全般の効率化により時間短縮を図る。</p>	<p>ア ICT 機器の活用による授業改善を行う。教員の活用率の90%以上維持（自己診断「教員の ICT 活用」[87.2%]</p> <p>イ 職員朝礼時等に府通知等をデータで送付し、服務規律を含めた情報共有の効率化を進め、各教員が共通の情報の元、意見交換を行える雰囲気づくりを行う。</p>	<p>ア 1人1台端末の配備とともに、各教室の黒板をホワイトボードにし、プロジェクターを常設することで ICT 機器の活用が進んだ。自己診断で100%となったが、今後は授業でどのように活用するか重点を置き、更なる改善に取り組む。(◎)</p> <p>イ 毎日の職員朝礼時に通知等を伝達、その後メール配信することでコロナ禍における緊急対応等についても情報を共有ができた。職員会議等においても、2学期から教員端末を活用し、時間短縮とペーパーレス化を促進できた。(○)</p>
--------------------	---	---	---